

平成18年10月12日

コンテンツをめぐる課題に関する意見

コンテンツ専門調査会
委員 原田 豊彦

NHKでは、かなり早い段階から「海外販売、国際共同制作」に積極的に取り組んで来ました。

海外販売で成功しているのは、「自然番組」「科学番組」「アニメーション番組」など国際的な普遍性・共通性があり、それぞれの国の文化や社会的な背景を越えて楽しむことができる番組です。

コンテンツビジネスとして大きな市場である欧米向けでは「ドラマ」はコンクールでは数多くの受賞実績がありますが、ビジネスとしてはほとんど成立していません。映画も含め、ドラマコンテンツは言語、容姿を含め「文化の集合体」であり欧米で受け入れられる事は、並大抵ではありません。

海外展開についてのもう一つの柱である「国際共同制作」については、例えばBBCが企画した「プラネット・アース」やNHKの「新シルクロード」では各国の放送局が得意とする独自のノウハウや制作費を分担することで、1社では出来ない大型企画を実現してきました。「自然・科学・紀行」番組などの分野では過去の実績もあり、今後も様々な企画が進行中ですが、共同制作の場合は「輸出・輸入」の統計数値に表れないのが課題です。しかし、多国の放送局・制作会社が参加する場合はスケールが大きい番組となり、各国の好適時間帯で放送される事が当初から約束され、多くの人々に見られる点も含め、有効な手段だと考えます。

ドラマでも、日中合作、日豪合作など過去いくつかはありますが、日本向けを意識したドラマにとどまっており、欧米を含め多くの国に流通するコンテンツを作るためには、国際的なドラマプロデューサー、ディレクターを若い段階から育成していかなければならないと考えています。

その意味では、国を挙げてロイヤーも含め、世界に通用する人材育成を進めることは将来のコンテンツ大国実現に向けた基本であると考えます。
NHKとして、ノウハウの提供など積極的に貢献できればと考えます。